

6月

みんなくウィークエンド・サロン

# 研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別！

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

※特別展開催中のウィークエンド・サロンでは13回にわたりみんなくの名誉教授が初代館長・梅棹忠夫についてお話しします。

5日  
(11月11日)

話者：祖父江孝男（国立民族学博物館 名誉教授）

話題：【特別展「ウメサオ タダオ展」関連】

梅棹さんと私一出会いから民博草創期まで

場所：特別展示館

12日  
(11月18日)

話者：杉田繁治（国立民族学博物館 名誉教授）

話題：【特別展「ウメサオ タダオ展」関連】

梅棹流 知のマジック

場所：特別展示館

※夏みんなくフォーラム期間中はオセアニアに関するお話をお届けします。

19日  
(11月25日)

話者：小林繁樹（国立民族学博物館 教授）

話題：【「どっぶりオセアニア——夏みんなくフォーラム 2011」関連】

クラ交易の記憶をとどめる歴史資料

場所：本館展示場内オセアニア展示場

## 1年間みんなくに何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

- ◆特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
- ◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
- ◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

## 編集後記

あたらしくなったアメリカ展示で引き続き展示されている骸骨人形にことよせて今号で特集した骨は、生命維持に必要なミネラルの貯蔵と調節の機能をもつ、体内の「海」だ。海を携えたおかげで陸へ進出した脊椎動物は、体を保護する外骨格の代わりに内骨格を発達させて、重力に抗する大型の体をえた。ヒトの場合、頭蓋骨は外骨格の名残だという。重要な脳を守るのに有利だったため最後まで残ったのだろうか。外骨格であるゆえ頭蓋骨から顔つきを想起しやすく、だからこそ、頭蓋骨は特定の故人と強く結びつくのだろう。頭蓋骨に限らず、没後も残る硬い骨は、個人情報の集積であると同時に、故人を偲ぶやすがであるのは、特集の各論が述べるとおりだ。

いや骨だけではなく、写真、書き物、愛用した品、たったひとつでも良い、残されたモノや記録から紡がれる思いや記憶のなかに、亡くなった方々は生き続ける。少しでもその役に立つこと、これもまた、博物館や図書館、資料館の重要な役割だとあらためて思う。(久保正敏)

●表紙：骸骨人形（死神の音楽隊：バイオリン、ギター、ハーブ）  
標本番号 H0131684, H0131685, H0131686

次号の予告

特集

## 海とともにいきる あたらしくなったオセアニア展示

月刊みんなく 2011年6月号

第35巻第6号通巻第405号 2011年6月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂  
編集委員 久保正敏（編集長） 朝倉敏夫 櫻永真佐夫  
庄司博史 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹  
デザイン 宮谷一孝

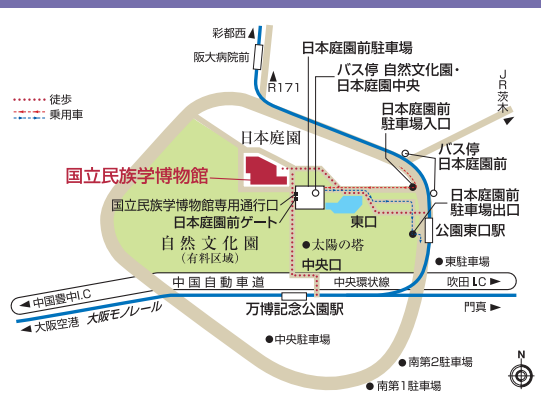
制作・協力 財団法人 千里文化財団  
印刷 日本写真印刷株式会社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に  
お願いします。

\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

### 交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料) から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

